

## 地域医療ネットワークの中核施設

⑩⑥ おゆみの中央病院 (千葉県千葉市)



高台に建つおゆみの中央病院

千葉県最大のニュータウン「おゆみ野」(千葉市緑区)の台地に、3月に開院したおゆみの中央病院。1階はガラス張りで、四角く白い外観はモダンだ。内装は白とこげ茶が基調で、高級マンションを思わせる。豊かな緑に囲まれ、病室や食堂談話コーナーなどからの眺望が素晴らしい。

四つの基本方針として①患者中心②チーム医療③和顔愛語④イノベーションを掲げているだけあって、職員は目が合うたびに笑顔であいさつをしている。驚いたのは、入院患者がスタッフステーション内のテーブルに座って、看護師や患者同士で談笑

していること。これがスタッフに対する信頼感の醸成や患者同士の癒やしにつながっているようだ。

地下1階、地上5階建てで、病床数は一般病棟99床、回復期リハビリテーション病棟50床の計149床。整形外科、リハビリテーション科、小児科など診療科は8科をそろえる。

急性期医療では、千葉県夜間外科系救急や休日二次救急病院の指定を受け、地域の救急医療に貢献。心臓カテーテルや整形外科手術など専門分野に特化した医療も担う。さらに、回復期リハから外来リハ、訪問リハまで一貫したリハを行って



モダンなデザインの総合受付回り



緑豊かなゴルフ場に面した病室



廊下での歩行リハの合間に緑を見下ろせる



3～5階に設けられたリハビリテーション室



車いすなどが余裕を持ってすれ違える幅の広い廊下



大きなガラス張りの食堂談話コーナー

いる他、同区初の心臓リハも開設。また慢性期医療では、在宅医療センターを設け、訪問診療、訪問看護、訪問リハを一体化して運営している。

同病院は医療法人社団淳英会が推進している「統合ヘルスケアネットワーク(IHN)」の中核施設。IHNとは「急性期から生活期までのサービスが一本の線でつながった診療体制」と山下剛司理事長。淳英会は1996年におゆみの整形外科クリニックを開院して以降、介護老人保健施設、有床診療所、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターを同区内で展開してきた。山下理事長は「おゆみの

中央病院は各施設を結ぶ核となる機能を備えている。電子カルテや画像検査、患者IDをここ1～2年で共有化することで、医療と介護、診療所と病院の間の連携からさらに踏み込んだ統合の実現を目指している」と話す。

淳英会は学校やスポーツチームに理学療法士を派遣して健康向上や外傷予防などをサポートしたり、ジェフユナイテッド市原千葉の選手の診療をしたりするなど社会貢献活動も行っている。地域に密着した医療貢献をてこに、緑区から他地域への展開も視野に入れている。